

欧州 ～欧州議会選はポピュリストの草刈場～

経済調査部 主席エコノミスト 田中 理(たなか おさむ)

欧州11ヶ国でポピュリストが政権に参加

欧州のポピュリズム研究で知られるスウェーデンのシンクタンク・ティンブロによれば、2018年に欧州で行われた6つの国政選挙で、ポピュリズムと位置づけられる政党が獲得した支持率は36.2%と、1980年の調査開始以来で最も高かった。イタリアでエリート主導政治に批判的な「五つ星運動」と難民受け入れに反対する「同盟」のポピュリスト2党が連立政権を発足したほか、ハンガリーではその権威主義的な政治スタイルが物議を醸すオルバン首相が率いる政党が議会選を圧勝し、政権基盤を固めた。ティンブロが集計する欧州33ヶ国のうち11ヶ国で、ポピュリストが政権を率いるか、何らかの形で政権運営に協力している。

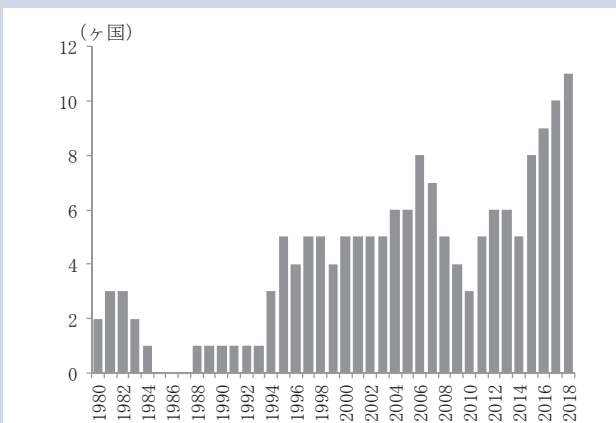
今年もフィンランド、スペイン、ベルギー、ポルトガル、ギリシャなどで国政選挙が予定されている。隣国イタリアのポピュリスト政権が難民受け入れを拒否したことを受け、最近ではスペインが北アフリカから欧州への難民流入の新たな玄関口となっている。右派ポピュリスト不毛の地と言われたスペインでも、難民受け入れに反対する新興政党「ボックス」が急速に支持を伸ばしている。秋には、難民受け入れに反対する右派ポピュリスト政党「ドイツのための選択枝」の躍進が予想される旧東ドイツ地域での州議会選挙も控えている。ポピュリストの脅威が収まる気配はない。

EUの立法機関にもポピュリストの影

なかでも注目を集めるのが、5月23～26日に欧州連合(EU)加盟各国で行われる欧州議会選挙だ。日本で馴染みの薄い欧州議会は、加盟国政府の閣僚で構成されるEU理事会とともに、EUの共同立法機関だ。EUの人事や予算決定で重要な役割を担っている。各国毎に定数が割り当てられ、5年に1度の直接選挙で、居住国の代表が選出される。5億人のEU市民の声を代表する筈の欧州議会選挙だが、国政選挙に比べると一般に市民の関心や投票率が低い。そのため、現政権やEUに対する批判票が集まりやすいことで知られる。

各国で選出された議員は、国を超えた政党グループを結成して活動する。現在は中道右派の「欧州人民党」と中道左派の「社会民主進歩同盟」の二大会派が議会の過半数を占め、EUの意思決定に大きな影響力を持っている。今回の選挙では、各国で台頭著しいポピュリストが一段と勢力を拡大する公算が大きい。世論調査によれば、二大会派の合計獲得議席が過半数を割り込み、ポピュリストの総獲得議席が3割以上に達することが予想される。現在、主流会派に属する政党の一部にも、選挙後にポピュリストが結成する会派への合流を模索する動きも出ている。二大会派で意見が食い違う立法分野では、ポピュリストが大きな影響力を持ちかねない。

資料1 欧州でポピュリスト政党が政権運営や政権協力する国数



(注) 欧州33ヶ国の国政運営を集計
(出所) Timbo資料より第一生命経済研究所が作成

資料2 欧州議会の政党グループ別構成



(出所) 欧州議会、Poll of Pollより第一生命経済研究所が作成